

Revolution

JAPAN NEW WAVE

www.satoyasuki.jp



NEW JAPAN ★ 2050

令和 3 年特別号

【須磨事務所】〒654-0023 神戸市須磨区戎町5-1-3-302
【垂水事務所】〒655-0029 垂水区天ノ下町1-1ウェステ垂水308

TEL:078-585-8359 FAX:078-330-2514 発行日:令和3年8月30日
e-mail:info@satoyasuki.jp

世界で勝ち抜ける日本をつくる

玉木 私たちが訴えている「子供国債・教育国債」を発行して、教育や科学技術、人づくり、イノベーションに今の倍の予算を付けるくらいのことをやらないと間に合わない。我々が卒業してからの二十五年の衰退をさらに二十五年続けたら、日本は今度こそ終わってしまう。もちろん単に反対だけの政治ではダメで、強い危機感の中で政治が責任を果たしていかなくてはいけない。

佐藤 科学技術やイノベーションは常に人とセットです。人をつくるところに何十年もお金をつぎ込んでこなかつたツケが、今まわってきている。日本の国際競争力というか、日本の国力を取り戻すためには、未来に対する投資を続けていくしかないですね。

人づくり



玉木雄一郎×佐藤やすき対談

佐藤 今の与党的やり方は旧態依然です。それに対して、私たち国民民主党が示すべき対立軸は、「時代にふさわしい政治」「新しく進化した政治」ではないでしょうか。

玉木 その通りです。実際、私たちが訴えてきた政策を半年前からやつていれば、コロナ対策もうまくいっているはずなのに、今自分が総理大臣ではないことが本当に悔しいですね。

佐藤 そのためには選挙に勝たないといけません。政権を取らないと自分たちの政策ができません。日本はこのままじやダメだという危機感、覚悟をどれだけ共有可能かにかかるつていてる。

玉木 死に物狂いで訴え続けるしかない。国民民主党という小さな政党で、「時代にふさわしい政治」「新しく進化した政治」をめざして次の選挙に臨んでいる。打算を超えた政治家。ある意味「バカ」が集まらないと世の中は変わらない。

今の政治家は、ステイ・ブジヨブズの言葉を借りれば、「ステイ・ハングリー」でも「ステイ・フリー・リッショウ」でもなくなつてゐる。

www.satoyasuki.jp

二〇の目

佐藤 全く同感です。玉木さんの日本の日本政治に対する思いは、米国留学の頃から全く変わつていません。

佐藤 今の与党的やり方は旧態依然です。それに対して、私たち国民民主党が示すべき対立軸は、「時代にふさわしい政治」「新しく進化した政治」ではないでしょうか。

玉木 その通りです。実際、私たちが訴えてきた政策を半年前からやつていれば、コロナ対策もうまくいっているはずなのに、今自分が総理大臣ではないことが本当に悔しいですね。

佐藤 そのためには選挙に勝たないといけません。政権を取らないと自分たちの政策ができません。日本はこのままじやダメだという危機感、覚悟をどれだけ共有可能かにかかるつていてる。

玉木 死に物狂いで訴え続けるしかない。国民民主党という小さな政党で、「時代にふさわしい政治」「新しく進化した政治」をめざして次の選挙に臨んでいる。打算を超えた政治家。ある意味「バカ」が集まらないと世の中は変わらない。

今の政治家は、ステイ・ブジヨブズの言葉を借りれば、「ステイ・ハングリー」でも「ステイ・フリー・リッショウ」でもなくなつてゐる。

■コロナ対策

佐藤 今、ここだけは絶対に借金してお金をつぎ込んでやらなければならぬのはどういう点ですか。

玉木 何よりも今はコロナ対策。感染を抑えられないまま、何回同じことを繰り返しているんだと。ワクチン接種が遅い。オリンピックをやつても大丈夫と言いながら感染が増え続ける。挙句の果てに入院できる人を制限する。後手後手でお粗末すぎます。

佐藤 国民民主党は病床確保を訴え続けていますがそれを放置したままで病床逼迫に至っている。国民の命を守れないね。

政治なんて、存在する意味がありませんね。

玉木 責任を取るのが嫌だから決断ができない日本。この点は戦前から続いている。第2次世界大戦でも大きな決断をせずに戦力の逐次投入になつて、効果を發揮しないまま税金だけ使つてダメになつた。今まさに同じことが起つていますね。

日本の政治を進化させたい

佐藤 玉木さんは大学のゼミの先輩で、半国ハーバード大学留学でも席を並べました。

玉木 一緒に学んだケネディスクールで「このままじゃ日本はダメだ」って危機感を持つたけれど、今その通りになつていてる例えばこの二十五年間、日本の実質賃金指数は下がり続けています。

佐藤 他の国では実質賃金が上がっていますが、日本だけが下がっていますね。

玉木 日本の一人あたりGDP(国内総生産)もかつてはトップテンに入っていたのが、今は世界で二十六番目。IMD(国際経営開発研究所)の国際競争力ランキングも一位だつたのが今は三十四位。

佐藤 ケネディスクールは政治家や官僚といった政策実行責任者を養成する大学院だからこそ、政策実行の判断の難しさや厳しさを学びました。私は「国民に寄り添う政治」が必要と常々言っていますが、それは国民の声に耳を傾け、喜びや痛みを共有し、現実的に実現可能な政策をギリギリのところで判断していくことだと思います。

玉木 その為に必要なのは政治家の覚悟です。今はサラリーマンの延長みたいな政治家ばかりになつて、次の世代のことよりも次の選挙にしか関心がない。選挙に通る通らないの次元ではなく、この国の問題点を的確に訴え、国民を巻き込んで運動に拡げていく。これがダメならこつちではなく、苦しкуても辛くとも問題意識を持つたら死に物狂いで、それを訴えて世の中を変えていこうとする政治家の覚悟と度量が必要ですね。

二三



政治の責任

佐藤 この間日本の劣化が進み、加速度的に悪化しています。

結果に責任をとること。この二つしかないと
いのに、今はどちらもできない。例え
ば一時的に借金を大きく増やしても、
休業補償を万全にするから休んでくれと
いう選択で決断できない。中途半端な財
政再建にこだわって、財政出動が弱くなつ
たばっかりに感染症が治まらない。



こくみん 民主党 Democratic Party For the People

●世界で勝ち抜ける日本をつくる！

長い間海外で仕事をしながら日本を見つめきました。政治家となり、未来を見据えた政治で『新しい日本』をつくりたいというのが私の初志です。激動する時代にあって、日本が安心して暮らせる平和で豊かな国であり続ける為には、世界で勝ち抜ける日本をつくるねばなりません。グローバル化が進む世界で、経済を動かす未来のテクノロジーや社会を維持する未来のシステムにいかに投資していくかは政治の力量です。

Revolution
JAPAN NEW WAVE



さとう★やすき
佐藤
SATO YASUKI

■プロフィール■

幼少時を米国で過ごし、神戸で育つ。
六甲学院中・高、東大法学部・
同大学院を経て米国ハーバード大
ケネディ政治大学院卒業。
国連でのインターン、欧米の投資銀行を
経て、住友商事で世界のインフラ開発
投資に従事し現在に至る。
若松塾講師。

NEW JAPAN★2050

改革保守

●初志貫徹

